



編集発行

☎912-0434

大野市宝慶寺 1-2
 宝慶寺奉賛会事務局
 振替 00720-2-11671
 TEL 0779-65-8833
 FAX 0779-65-8103
 Eメール hokyoji@happytown.ocn.ne.jp

住職 松原徹心
 責任役員 小林昌道 岡田一則 伊藤武夫
 他役員一同
 奉賛会会長 中村利章 他役員一同

本年、二月二十一日に遷化致しました當山五十五世 眞海洋一和尚の本葬儀が、六月十三日、十四日、大本山永平寺第八

本師 眞海洋一大和尚 本葬儀圓成の感謝と ご報告



遺弟 島根県浜田市龍雲寺住職
野原眞承

眼若不睡、諸夢自除
 (眼もしねむらざれば、諸夢、自ら除かれん) (信心銘)
 (意) 迷いにおちいついていなければ、除くべき迷いなどはない。

十世南澤道人猊下御導師(秉炬大導師)のもと、當山法堂にて厳修されました。今日まで師匠が長きに渡り、祖山安居時代から東京別院安居、また、駒澤大学大学院時代、そして、京都府亀岡市西光寺住職就任を経て、白山老師(祖山元西堂)御膝下での隨身参学の御勝縁、更には大本山永平寺第七十八世宮崎奕保猊下のもと、祖山単頭就任での佛道修行の勝縁を経て、當山五十五代目の住持となられ、その後二十年の長きに渡り、多くの御法縁を結ばれました。その時の御法友であられる老大宗師方が、佛事師各御導師をはじめ、説教師等全てを御勤め頂きましたことのみならず、当日は、他にも多くの諸大徳老師方に御隨喜、御加担を賜りました。又、當山檀信徒岡田一則総代長はじめ、中村利章奉賛会長他、僧俗四衆共に本当に沢山の皆様に御焼香を賜り、この上なき厳かなる本葬儀佛事法要が圓成致しました。法要当日、ある檀家さんが、「宝慶寺で出来て本当に良かった」と、しみじみとお話し下さいました通り、諸事多難の配慮が必要とされた時節に、宝慶五十二世 橋本慧光老師の本葬儀以来、五十七年ぶりとなった當山法堂での本葬儀法要を、お寺と檀家、信徒(奉賛会)の皆様が、佛神の御加護のもと、一体となって力を合わせ協力し実現

させて頂いた誠に稀有なる有難い法要でございました。大本山永平寺南澤道人猊下におかれましては、諸事諸縁御多用の折の中、大慈大悲を以て法縁を重んじ、御来臨賜りましたこと、遺弟一同只只、伏して感謝申し上げます。また、連夜佛事より二日間に渡り、諸佛事導師並びに説教師等、厳肅なる御勤めの御法縁を賜りました大徳老師方に、衷心より感謝申し上げます。特に、二月の茶毘式の時から、直々に大分まで御隨喜賜り、本葬儀成就の為、当初から内外諸事詳細に至るまで御配慮、御教導賜りました祖山監院 小林昌道老師には、長期に渡り、絶大な御尽力を賜りました。このように全国各地から師匠に深く御法縁のある方々に御隨喜頂ける大法要は、大本山永平寺の御支援なくしては到底成就することは出来得ませんでした。只只、伏して感謝申し上げますばかりです。また、もとより、この度の得難い御法縁は、當山宝慶寺が、道元禪師様御遷化の直後、深山幽谷にて十八年もの間、独り坐禅巖上にて孤坐淵黙され、生涯只管打坐接化徹底なされた寂圓禪師様の開かれた道場であればこそ、ということ、そして、寂圓禪師様の宏大無辺で深淵なる佛徳、大安心の智慧と慈悲の光に、今日も深く満たされている道場であればこそ、こうした

時節の中にあってもなお、宝慶寺の修行僧方が、法要当日まで毎日坐禅修行の行持を欠かさず、菱川昌裕知客老師御指導の下、如常に護持され、日常の行持そのままに、静寂なる本葬儀の勤行が成就なされたことと感しております。

世情は、自然災害においても、また、戦争紛争等人災においても、終息、調和の兆しは未だありませんが、かつて激動の時代を生きた高祖道元禪師、御開山寂圓禪師様が御示しなされた正傳の佛法、大安心の御教えを、実参実究されるこの宝慶寺道場の如く、御法縁を頂く方々と共に、佛道を日日実践し、お伝えさせて頂くことこそ、高祖様、御開山様、先達たる師匠への報恩行であると感じております。

最後に、この度の大法要に際し、十分な御案内やご挨拶、礼状等万時尽くせず、非礼ばかりありました我々遺弟他、関係者を慈悲深く御教導、御法愛を賜りました全ての皆様、重ねて感謝申し上げますと共に、国内外の正法興隆、そして、生きとし生ける一切の存在の平安を切に祈念申し上げ、諸佛諸菩薩の御加護のもと、圓成致しました尊き佛縁への感謝と、ご報告とさせていただきます。有難うございました。遺弟九拝



奠茶師 京都府智源寺住職 高橋信善師



秉炬 大本山永平寺不老閣祝下

寶慶五十五世
眞海洋一大和尚
本葬儀

令和四年
 六月十三日 逮夜
 十四日 葬儀



鎖龕師 静岡県旭傳院住職 青木浄翁師



起龕師 新潟県重傳寺住職 石黒英進師



奠湯師 滋賀府正傳寺住職 北野良道師



出 匣



多くの方が参列されました

宝慶寺五十五世
眞海洋一大和尚
本葬儀決算報告

収入	一一、七二六、〇〇〇円
支出	八、八二三、七五五円
差引額	二、九〇二、二四五円

残金は五十五世年回法要等で使用させていただきます。



墓石開眼並びに納骨法要 (8月30日)

修行僧紹介



佐藤大起 (天元)

私は福島県、東禅寺 従弟、佐藤 大起と申します。季節が夏へと移り暑さが増し始める六月に宝慶寺に転役して参りました。

来たばかりの頃、私は自然豊かな山々に囲まれながら生活してゆく事に一抹の不安を感じておりました。しかし、日々の中で自然の魅力を学び、不安は興味へと変わりました。僧堂前の衝立に書かれた「孤坐淵黙」の文字は、大自然の中で一人黙々と坐禅をする御開山寂円禅師様を表現しています。その言葉が虫や鳥のさえざり、小川のせせらぎの響を一層意味深いものにしてくれます。

今は夏真っ盛り、境内の雑草が勢いを増して成長します。宝慶寺の境内は広く、草刈り機を使用します。私は、草刈り機に触れるのは初めてでした。最初は使い慣れない機械に振り回され、効率良く刈り取れませんでした。しかし、回数を重ねる毎に、慣れてゆき、大自然の中に

身を置いて作業できることに、楽しみを感じるようになりました。

また、宝慶寺の境内には山菜が多く自生しています。学生時代、師匠に山菜採りにつれて行ってもらった経験から、山菜のことはそこそこ分かるつもりでいました。しかし、宝慶寺のお檀家さん方はさらに詳しく、私の足元には、もつと沢山の食べられる草花が生えている事を学びました。今では、この知識を使って、食卓を彩らせることができるようになっていきます。最近季節のものを美味しく頂くことを通して、命を感じ、身体を活かす薬として「食」というものを捉えられるようになった気がします。



中島和京



私は、茨城県、一閑寺徒弟、中島和京と申します。寂

寺に令和四年六月に永平寺より転役して参りました。現在の宝慶寺は、永平寺から四名の修行僧と一名の役寮さん、二名の役僧さんの七名で修行しています。私は、永平寺に上山してから常々、修行に対する心構えについて古参の方から多くの御指摘を頂きました。

永平寺を出て宝慶寺に到着した時、周辺には見渡す限りの樹木と覆い茂る草花しか目に映らず、本当に山の奥深い所で驚きました。玄関に立つと、私を迎えてくれた先転役の方々の気の引きしまった顔つきを見て、永平寺とはまた違った緊張感がありました。私は、こんな所でしたらと勤まるのかといった不安に駆られました。

宝慶寺に入り最初に印象に残ったのは、大きな衝立に書かれた「孤坐淵黙」という言葉です。この言葉は、「大自然の中で一人黙々と坐禅をする」という意味が込められており、宝慶寺の御開山である寂円禅師様が一生を掛けて坐禅に打ち込まれた姿を、宝慶寺二世の義雲禅師様が表現した言葉です。

宝慶寺では、一日中坐禅に打ち込む「一日摂心」という行持が月に数回行われます。私は、この一日摂心をすごく大事にしています。この静かな大自然に囲まれた中で坐る坐禅は、今までに経験したことが無く、沢山の感情が込み上げてきます。始めは、「足が痛い。坐っているのが辛い。」など、坐禅が苦手な私にとっては、この言葉しか思い浮かびませんでした。しかし、それが今では「ひたすらに坐る事によって自分を深く見つめ直せる良いご縁を頂いたな」と感謝の気持ちしかありません。坐禅は、私自身をこれからも大きく成長させて頂けるとても大切な行持だと感じています。寂円禅師様の教えが今も残されている宝慶寺で修行が出来る事に感謝し、これからも精進して参ります。



南波剣司



私は群馬県、徳昌寺 徒弟、南波 剣司と申します。令和四年の春に永平寺に上山し、七月から宝慶寺への配役を賜りました。宝慶寺への転役を告げられた時は、永平寺から離れるという事もあり、不安で一杯でした。しかし、今では宝慶寺の配役を頂けたことは、私にとって良縁であったと思えるようになりました。

それは、宝慶寺は日々のお寺の行事から境内の整備や調理、護寺運営に係る事、更には御朱印を書くことやお寺の案内を通じて参拝者やお檀家様との関わり合いに携われる等、総合的な経験ができるからです。中でも一番興味を持った事は、永平寺では三年目以上しか務められない法要の公務を宝慶寺では直ぐに経験できることです。そして、分からない事を直ぐに聞ける環境ということでした。

私は現在、数多くの定められた作法の中でも、永平寺で最初に教えていただいた「三進退」という作法を大切にしています。三進退とは、挨拶をする時、平常より立ち歩く時、坐禅や正坐など坐っている時の定められた手の位置、組み方に則った振る舞いです。

開祖道元禅師様は『正法眼蔵』「現成公案」の巻で、「仏道をなろうというは自己をならうなり」とお示しです。ここ宝慶寺で、一つ一つの行いを定められた作法に修めていくことで、自分の心が調っていくように感じています。

この宝慶寺は、道元禅師様の弟子である寂円禅師様が開かれた道場です。以来脈々と受け継がれている仏法の有難味と、曹洞宗第二の道場で修行できる喜びを感じながらより一層精進していく所存です。

開山忌・奉賛会総会の御案内

謹啓 初秋の候、皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。
 今年の開山忌を下記の日程にて行います。
 また、宝慶寺奉賛会総会を開山忌に合わせて開催させていただきます。
 御多忙中と存じますが、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

敬具

10月11日 (火)

開山忌
 15:00 開山忌速夜調経

10月12日 (水)

開山忌	奉賛会総会
9:00 施主供養	13:00 総会
開山忌正当調経	13:30 特別講演
山門大施食	永平寺 布教師
寂円観音様開眼調経	
昼 食	

山内日鑑より

【五月】
 三日 托鉢 (永平寺町)
 四日 托鉢 (中野、水落町)
 五日 托鉢 (上舌、下舌)
 七日 托鉢 (木本、榎)
 十一日 釈迦三十二禅刹めぐり
 ツアー (十七名) 参拝
 十二日 奉賛会役員会
 十四日 料理教室第六回 (十三名)
 二十一日 托鉢 (上据、下郷)
 二十五日 五十五世本葬会議
 三十日 愛知県 泉増院様
 (二十一名) 参拝

【六月】

四日 愛知県 川口 英様 (七名) 参拝
 十二日 五十五世本葬会議
 十三日 五十五世速夜
 十四日 五十五世本葬儀
 十六日 銀杏峰拜登
 二十日 月例撰心
 二十五日 托鉢 (篠座、春日)
 二十八日 月例撰心
 三十日 上庄こども園様 (二十名) 坐禅体験
【七月】
 一日 孟蘭盆施食 (十五日)
 九日 料理教室第七回 (十四名)
 十日 月例撰心

添 菜

十二日 長野 大輪寺様 (四名) 坐禅会	十三日 総代会	十六日 托鉢 (美川町、月美町)	十七日 托鉢 (篠座、新庄)	十八日 托鉢 (上志比)	二十日 月例撰心	二十三日 托鉢 (明倫町、日吉町)	二十四日 托鉢 (庄林、中野)	三十一日 托鉢 (元町、大和町)	三日 月例撰心	三日 棚経 (大野市) (五日)	七日 棚経 (福井市)	八日 奉賛会役員会	二十一日 托鉢 (永平寺町)	二十二日 月例撰心	二十七日 料理教室第八回 (四名)	二十八日 托鉢 (陽明町、中挾)	二十九日 大本山永平寺別院長谷寺様 (二十一名) 参拝	三十日 五十五世墓石開眼・納骨	三十一日 月例撰心	三日 托鉢 (木本、榎)	四日 托鉢 (篠座、右近次郎)	菓子 奈良県 林 清雄様	菓子 島根県 龍雲寺様	食品 神奈川 秋月院様	食品 福井 谷口敏子様	食品 兵庫 泰蔵寺様	食品 神奈川 報恩寺様	食品 愛知 寶珠寺様	食品 福井 田中知祥様	食品 福井 榎島郁代様	食品 神奈川 内山 誠様	食品 秋田 福昌寺様	食品 愛媛 城慶寺様	食品 静岡 閑田院様	食品 福井 観月寺様	食品 福井 徳巖寺様	食品 福井 徳巖寺様	食品 大阪 珊瑚寺様	食品 長野 頼岳寺様	食品 神奈川 秀 俊明様	食品 埼玉 榎島直美様	食品 福井 野田辰範様	食品 東京 永見寺様	食品 長野 裁松院様	食品 福井 山口利市様	食品 山形 萬徳寺様	食品 北海道 中央院様	食品 福井 上庄こども園様	食品 宮城 皆伝寺様	野菜 福井 山腰幸弘様	野菜 千葉 健康塾様	野菜 福井 山本重徳様	野菜 岐阜 野原 昭様	野菜 福井 谷口正浩様	野菜 東京 龍泉寺様	飲料 埼玉 榎島幸雄様	そば 福井 大関様	飲料 京都 龍猷寺様	野菜 福井 齋藤さくの様	食品 群馬 伊藤武夫様	食品 福井 伊藤清晴様	食品 長野 雲雀市雄様	食品 福井 徳應院様	食品 福井 伊藤清晴様	食品 福井 安川様	食品 福井 南波三千代様	食品 福井 小島様	野菜 福井 前田守博様	食品 福井 佐藤智宏様	食品 兵庫 織田宏介様	食品 福井 土井様	食品 福井 長谷川忍様	食品 福井 常徳院様	食品 福井 伊藤春彦様	食品 福井 福田能久様	食品 宮城 皆伝寺様	食品 福井 小林重俊様	食品 福井 高林寺様
----------------------	---------	------------------	----------------	--------------	----------	-------------------	-----------------	------------------	---------	------------------	-------------	-----------	----------------	-----------	-------------------	------------------	-----------------------------	-----------------	-----------	--------------	-----------------	--------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	-------------	--------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	--------------	-------------	-------------	------------	------------	-------------	------------	-------------	---------------	------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-----------	------------	--------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	-----------	--------------	-----------	-------------	-------------	-------------	-----------	-------------	------------	-------------	-------------	------------	-------------	------------

五十五世様の葬儀に携わらせていただきました。当山では五十七年ぶりのことで勝手がわからず、右往左往しましたが、多くの方のご尽力により、無事に終了することができました。今後も御協力いただいた皆様への感謝を胸に精進していきたいと思っております。

